

「応援します!! あなたの農業」

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 20 号 平成 18 年 7 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号

財団法人福島県農業振興公社

TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

「理事長就任にあたって」



理事長 松谷 要 寿

本年 4 月 1 日に財団法人福島県農業振興公社理事長に就任いたしました。

皆様には、日ごろより当公社の運営につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、当公社は、県農政における構造政策の推進機関として、県はじめ市町村及び関係団体との連携により、農地保有合理化事業による農地の中間保有機能や再配分機能を活用した規模拡大と、効率的な土地利用を図るための農地の利用集積等に関する事業及び青年農業者等の育成・確保や就農の促進を図るた

めの各種事業を推進し、併せて鉱害による浅所陥没の復旧事業を行うなど県行政の補完的な公益事業に取り組んでおります。

本県農業が、その生産力を十分に発揮し食料の安定供給と持続的に発展していくためには、意欲ある担い手の育成・確保とともに、新規就農者の安定的な確保が現在大きな課題となっておりますことから、当公社といたしましては、経営所得安定対策等大綱による品目横断的経営安定対策や効率的土地利用をはじめとする集落営農の構築、また、新規就農者の受け入れ情報の収集・発信等事業の充実強化を図り、その役割を果たして参りたいと考えております。

一方、公社の運営におきましては、平成14年度に策定した第二次経営合理化計画に基づき、役職員が一体となった事業の積極的な推進と効率的な業務の執行に心がけ、皆様の期待に応えられる組織として健全経営に努めて参る所存でありますので、益々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

農地調整課

農地保有合理化事業新任担当者研修会を開催いたしました。

平成18年7月3日(月)、郡山市の「福島県ハイテクプラザ」多目的ホールにおいて、本年度の新任担当者研修会を開催いたしました。

この研修会は、新たに合理化事業を担当することになった市町村及び農業委員会事務局の職員の方と各JAの担当職員の方を対象として、合理化事業の推進手法や業務の基礎知識及び実務の修得を目指して毎年開催しておりますが、今回は総勢118名の方に参加していただきました。

今年度は、県内約1000集落を重点集落とし県が推進している集落営農の推進活動について、農地保有合理化法人が持つ農地利用の中間保有と再配分の機能を活用した実践事例について紹介して説明するとともに、研修者の皆さんへは地域や集落への先導者としての役割を果たしていただきたい旨強く要請いたしました。

特に、平成19年度から始まる新しい品目横断的



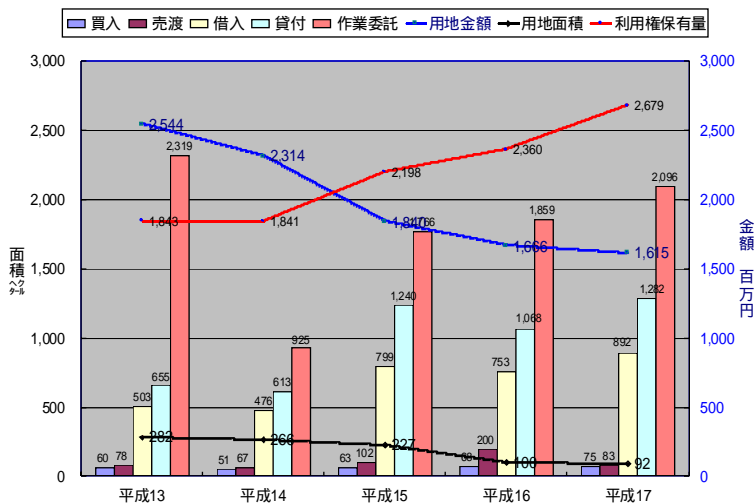
真剣な研修

経営安定対策については、当会社が支援している農作業受委託の契約と精算の方式が、従来の基盤整備地区での取り扱いと大きく異なることから、両者を包含した新しい方式を構築することについて、理解を求めた。

平成17年度の事業実績

平成17年度の農地保有合理化事業の実績を報告いたします。

■ 買入	75	ヘクタール
■ 売渡	82	ヘクタール
■ 借入	892	ヘクタール
■ 貸付	1,282	ヘクタール
■ 作業受託	2,096	ヘクタール
◆ 利用権保有量	2,679	ヘクタール



総務課

当会社の理事・監事及び評議員をご紹介します。(平成18年4月1日現在)

1. 理事及び監事

2. 評議員

役職名	氏名	職名	役職名	氏名	職名
理事長	松谷要寿	常勤	会長	横井孝夫	福島県農林水産部政策監
理事	松本友作	福島県農林水産部長	副会長	長島俊一	JA福島中央会参事
〃	植田英一	福島県酪農業協同組合代表理事組合長	評議員	星孝明	福島県農林水産部総務予算G参事
〃	飯野陽一郎	福島県土地改良事業団体連合会副会長	〃	鈴木貞夫	福島県農林水産部農村計画G参事
〃	富塚宥暲	福島県市長会(田村市長)	〃	高泉修	福島県農林水産部普及教育G参事
〃	鈴木義孝	福島県町村会(三春町長)	〃	馬場恒郎	福島県町村会常務理事兼事務局長
〃	安田壽男	JA全農福島県本部運営委員長	〃	水野秀一	福島県農業会議事務局長
〃	佐川栄蔵	福島県農業会議副会長	〃	阿部正	福島県土地改良事業団体連合会技監
監事	佐藤勝哉	JA福島中央会常務理事	〃	高田泰	農業委員会(南相馬市農業委員長)
〃	大出隆秀	公認会計士	〃	泉田昭	福島県指導農業士会長

育成センター

平成17年度末の貸付累計実績 1,005件、700,536千円

平成17年度末現在、育成センターが貸し付けた就農支援資金及び経営開始支援資金の実績は以下のとおりです。

○ 就農支援資金

185件 168,736千円

○ 経営開始支援資金

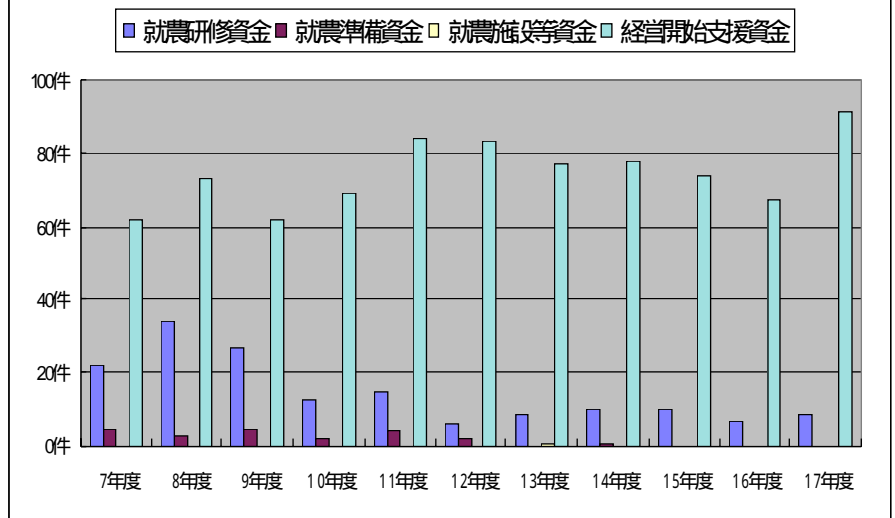
820件 531,800千円

合計 1,005件 700,536千円

平成17年度の新規就農相談者数は”140”件

育成センターが農業会議と共に新規就農相談センターとして、平成17年度に就農希望者から相談を受けた相談件数は、140件となっています。

就農支援資金貸付及び経営開始支援資金貸付実績(7~17年度)



なお、相談内訳等については、次号以降で紹介いたします。

「アクティブステージin裏磐梯」を開催しました 萌え～愛 S(会津)のエプロン!



この催しは県内の農業青年等がイベントや相互交流等を通して、将来の農業・農村を担うにふさわしい広い視野と豊かな人間性を養うことを目的に、毎年開催しているもので、本年は7月1日～2日(土・日)、北塩原村の「ホテル五色荘」で開催しました。

約70名の農業青年等が、会津の食材を生かしたカレー作りコンテストや木工細工に興じ、さらに夕食時の交流等により、一層互いの絆を深めた模様です。



長期育成タイプ・分割払い型を活用された 有限会社 深花園さん(白河市)

昭和43年頃から切り花生産を始め、55年頃からユリ栽培を導入し、平成3年頃からはオリエンタル系ユリを中心として、経営に取り組んできました。

平成5年には家族を構成員として農業法人を設立し、平成6年に白河市の認定法人となり、平成7年には農業生産法人としての資格を取得いたしました。



白河市内の経営地(広すぎて写真に入りません！)

営地が左右されることから、農地を取得することで規模拡大をすることにいたしました。

平成15年に白河市の水田30a、泉崎村の畑地130aを、スーパーL資金の融資を受け公社の農地保有合理化事業を活用して取得しました。

その後、年間を通した収入の安定、農作業の平準化を図るため「アルストロメリア」を導入することとし、平成16年に白河市の水田50aを**長期育成タイプ・分割払い型**を活用し6年の分割払いで取得いたしました。

資金借入や担保保証が必要ないなど、大いに助かり経営の安定化につながりました。

お陰様で、現在の経営面積は、約8 畝となり、昨年は、7億4千万の売上を上げることができました。



育成中のオリエンタル系ユリのハウス

生産拠点は白河市双石で、周辺水田を賃借して年々規模拡大を図ってまいりましたが、賃借料が固定化されること、土地所有者の考えによって経

編集後記

いったいこの長い梅雨は何時明けるのでしょうか？ 地球温暖化の影響なのでしょうか太平洋の海水温が高く湿った大量の雲を供給し続け、オホーツク高気圧が頑張り、太平洋高気圧も負けじと譲りません。おかげで長野県や鹿児島県など同じ地域に大量の雨が降り続けています。

被災された方々へ心からお見舞い申し上げます、チームー6%を真剣に考える今日この頃です。J.K

問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島県福島市中町8番2号
財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。
<http://www.fnk.or.jp>

※この広報誌は、再生紙を利用しております。

「あなたを、守る シートベルト 忘れないでね」